

【施策評価調査】

施策名	2-2-3	高齢者の生きがい支援		87	高齢者が明るく安心して生き生きとした老後を暮らすことができるようにするために 1. 子どもから高齢者、障害者も利用できる複合的な多目的施設の整備 2. 要支援要介護にならない予防策 3. 地域包括支援センターの有効活用 4. 高齢者の社会参加と学習機会の提供 5. 安定した生活支援 6. 地域協力の体制づくりを構築する
	担当部課	住民生活部 健康福祉課	担当 リーダー		
環境変化	高齢化の進展や町民意識の変化に伴い、家族のあり方も変化してきています。総世帯数の高齢者世帯数は34.8%にのぼっています。高齢者の労働力人口は、高齢者全体の24.9%で、後期高齢者になっても現役で働く割合は増えることが予想されます。また関係課と連携し、生涯学習や公民館事業に高齢者の学習機会を設けています。				高齢者の生きがいづくりを目的として、「シルバー人材センター」への登録や生涯学習の受講を促すとともに、高齢者が社会参加をすることで、地域全体の活力の向上を図ります。(※「高根沢町地域経営計画2006」からの抜粋)

■指標

施策の評価指標	基準値	年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
指標①:生涯学習講座参加者数(人)	基準値:平成16年度 各年度の指標:推計老年人口	計画	900人	1100人	1400人	1700人	1949人
	896人	実績	↑ 1,862人	↑ 2,783人	↑ 2,521人	↑ 1,832人	
指標②:シルバー人材センター登録者数(人)	平成16年度	計画	195人	225人	255人	265人	286人
	186人	実績	↓ 162人	↓ 166人	↓ 170人	↓ 178人	
◆◆ 指標に関する特記事項 ◆◆							

	年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
施策に係る事業費(傘下事務事業費計)の推移	当初	19,449,000	20,112,000	22,204,000	25,781,000	
	決算	18,144,008	19,218,597	21,638,345	22,953,396	

■事務事業事後評価 21年度の検証

施策傘下事務事業	事業費	活動量(アウトプット)	施策への貢献度	施策達成にどう貢献しましたか? (アウトカム)			
①働く場確保事業費	当初 9,500,000	シルバー人材センター会員数	A	定年後も高齢者が地域で就労できること、さらには仲間作りができることからシルバー人材センターの活動を支援する。			
	決算 9,500,000	178人 / 180人		今後の方向性(自己評価)	継続	今後の方向性(総合評価)	継続
②敬老会事業費	当初 13,880,000	敬老の集い参加者数(75歳以上の高齢者の3,265人の29%)	A	高齢者が地域開催の敬老会等事業に参加することにより、世代間の交流が活発になり、敬老への意識が高まるとともに、高齢者の生きがいにつながる。			
	決算 11,747,676	1,183人 / 946人		今後の方向性(自己評価)	継続	今後の方向性(総合評価)	継続
③戦没者追悼式事業費	当初 130,000	追悼式の参加者	A	阿久津中学校、北高根沢中学校の2年生を対象に遺族が戦争体験講話を実施した。追悼式当日には、講話を聞いた2年生の感想作文を読みあげ、平和の尊さを実感できる機会となった。			
	決算 102,371	78人 / 100人		今後の方向性(自己評価)	継続	今後の方向性(総合評価)	継続
④地域福祉活性化事業	当初 2,271,000	より所の設置(サロン)、福祉ネットワークの立ち上げ	A	地域に高齢者や多様な世代の人達が集まることのできるサロンの設置を進めるため、サロンの定期的な開催と運営方法をモデル化し、多くの地区にサロンが開設されるよう働きかけていく。			
	決算 1,603,349	3地区 / 2地区		今後の方向性(自己評価)	継続	今後の方向性(総合評価)	継続
⑤体験・交流活動事業費(再掲)	当初	講座参加者数	A	高齢者が生涯を通じて活躍できること、また学べる場としての講座開設を進める。			
	決算	1,832人 / 2,500人		今後の方向性(自己評価)	継続	今後の方向性(総合評価)	継続

■施策事後評価 21年度の検証

	施策達成状況に関する評価	課題と今後の方向性
自己評価	高齢者が生きがいをもって元気で活躍できる場としてシルバー人材センターの活動を支援した。敬老会事業は、各自治会開催となったことにより敬老者が参加しやすくなったこと、顔なじみとの交流ができることにより多様な年代との交流が進み、仲間作りが進んだ。地域にサロンが開設されることにより、高齢者はもとより多世代の交流が進み、高齢者の経験を活用するなどして活動範囲を拡大させ、高齢者が地域でいつでも元気で活躍できる場として必要な事業である。	地域において高齢者が元気で活躍できる場所が必要であることから、シルバー人材センターの活動を支援する。 サロンの運営に際しては、地域の多くのボランティアの確保が必要であることから、3地区の運営方法をマニュアル化し、地域が手軽にサロン運営できるよう支援する。
総合評価	総合評価 敬老会、高齢者の居場所(地域福祉活性化事業)など、地域や社協などと役割分担しながら、町がすべきことを整理していることを評価する。ただし、高齢者の生きがい支援として、町が行うべき支援とは何か。現在行っている様々な取組みや役割分担を検証し、町のあるべき姿を見極めた上で、施策展開を検討すること。	